

# 紙上法話

## 威儀即仏法

二十五年前のことです。私が本山修行を終えて郷里に帰り、あるお寺に入っていた時、お薬師さんの供養で、浄土宗のご老僧と同席をいたしました。するとそのご老僧が「この供養では、それぞれが法話をする事になっている、あなたが先にしなさい。その後私がやりましょう。」と言われました。その時の私の驚き、でも、逃げ出すことも出来ません。お経が終わり、それぞれの法話。その時の緊張感はどうでもないものがありました。ただただ一所懸命に話をしたのを覚えております。その後、お昼の接待を受け、最後にお茶を頂いているとき、ご老僧が「大きくなったね、本当にお坊さんになったんだねえ。」と前置きをされ、懐かしい昔話の後にこう付け加えられました。「若いのはいいねえ。今のあなたはその姿で街を歩いただけで布教になる。」と。

【威儀即仏法 作法是宗旨】と言つ教えがあります。是は『立ち振る舞いととのえ、日常生活のすべてが仏の行持であるとの自覚に立つた生活が営まれることが宗門の教えの要である。』ということとです。二十五年前の私にそれが実行できていたかは別にしても、心身を整え、まじめに生活をする姿には、それを見た人に少なからず感動を与えることが出来、布教の一端になるという事ではないでしょうか。

しかし、現在の世の中に於いて、日常の生活を見ると、中高生

センター布教師 宝福寺住職

森山容光



など若い人たちの生き方、行いはどうでしょうか。色々な場所・場面において目に余るものがあります。まるで自分しか居ないかの様に行動する。注意をしても「あんたに注意される筋合いはない。」とばかりに無視を決め込む。又は逆ギレをする。その様子は日に日にひどく成れども、決して良くは成つて来ません。なぜでしょうか。

この子にだけは苦勞させたくないと甘やかされて育つた。勉強さえしていれば、成績さえ良ければ、日常の生活態度など二の次、三の次という考えが親達にあつたのではないのでしょうか。そしてその上に、若い人達の手本になるべき大人達の生活の乱れ、自己中心の生き方が大変影響していると思われまます。

では、大人達が若い人達の為に日々の行いを変えれば良いのでしょうか。そうではありません。私達の人生は他の人達の為にあるのではなく、自分の為にあるのです。せつかく頂いた命、掛け替えのない此の命の大切さに一刻も早く目覚め、自分自身の為に、それぞれの命いっぱい生きてゆく。『威儀即仏法』、日常生活(行・住・坐・臥)の営みを整えて、生きて行くことが大切であると考えます。日月は人を待ちません。今こそ、こんな世の中だからこそ、まず自分から律していく生き方をお願いいたします。